

# 日本周辺クロマグロ調査委託事業（抄録）

由木雄一・村山達朗・石田健次<sup>\*1</sup>・若林英人<sup>\*2</sup>

近年の国際情勢から、クロマグロの資源管理体制の確立は必須と予想される。この調査の目的は、資源管理に必要な知見が十分でない日本周辺におけるマグロ類の漁獲データと生物学的情報の収集及び解析を行ない、マグロ類の資源評価に必要な基礎資料を整備することにある。

水産庁資源課・遠洋水産研究所主導の下に、データの集計と解析は日本エヌ・ユー・エスが行ない、漁獲状況等の調査は関係する21道府県が協力して行なった。島根県はヨコワの魚体測定とクロマグロ及びその他のマグロ類に関する伝票調査を行なった。

詳細は「平成8年度日本周辺クロマグロ調査委託事業報告書」に報告されているので、ここでは結果の概要について述べる。

## 結果の概要

### 伝票調査

各漁協（浜田・五十猛・大社・北浜・恵曇・浦郷）の「販売統計書」からクロマグロ（マグロ20Kg以上、ヨコワ20Kg未満）、キハダ、ピンナガについて月別、漁業種別、漁獲量の集計を行なった。また、定置網で漁獲されたマグロの地区別、月別、漁獲重量と漁獲尾数を集計した。

### 魚体測定

浜田港・五十猛港・和江港・恵曇港に水揚げされたヨコワ及びコシナガの測定（尾叉長・体重等）を実施した。

### 漁況の概要

- 6～10月にコシナガがまとまって漁獲された。これまでコシナガがまとまって漁獲された例がなかったため、各市場ともヨコワとして処理された。従って、今年度の水揚統計のヨコワにはコシナガが含まれた数値となっている。
- 主要6市場（浜田・五十猛・大社・北浜・恵曇・浦郷）における1996年のクロマグロ及びコシナガの漁獲量は約223トンと、昨年、一昨年を大きく下回った。
- 体重20Kg以上のマグロが漁獲されたのは定置網だけで、主要6市場のうち浜田・大社・恵曇・浦郷の4市場で水揚げされた。漁獲量は約4トンとほぼ昨年並であった。
- マグロの入網は4月に始まり8月上旬には終了し、全体の70%以上が6月に集中するという例年通りの状況であった。魚体は小さなものが30Kg、大きなものが150Kgとなっていたが、大半は40～50Kg前後の小型個体であった。
- 体重20Kg未満のヨコワ（今年度はコシナガを含む）は219トンで昨年（558トン）、一昨年（332トン）を大きく下回った。

---

\* 1 鹿島浅海分場

\* 2 栽培漁業センター

- 1～5月まではヨコワ、6月にはコシナガが混じるようになり、7～9月まではほとんどコシナガとなり10月になると再びヨコワが漁獲されるようになった。11月は大半がヨコワであったがコシナガもわずかに混じていた。12月にはコシナガは見られずヨコワだけとなった。
- 本格的なヨコワ漁は10月にはじまり11月がピークとなり12月中旬に終了した。この時期に年間の約82%が漁獲された。(釣55%、まき網29%、定置網16%)
- 浜田で7月にコシナガが確認された直後、クロマグロ調査対象地区を含む10市場に漁獲状況の聞き取りを行った。それによると、コシナガが最初に確認されたのは山口県に近い益田で6月の中旬に定置網で漁獲されたと思われる。但し、漁協の職員によるとコシナガについてはそれまで知らなく、ヨコワやビンナガとは違う変なマグロが獲れたという認識だったという。このように、各市場ともヨコワとは異なるマグロと認識しながらも水揚げ統計はヨコワとして処理された。(現状ではコシナガとヨコワを分けることができない)隠岐島(隠岐島では市場調査による確認を行わなかったので不明)を除く県全域でコシナガの来遊が確認された。コシナガはこれまでに来遊したことがないと言う漁業者が多かったが、一部の漁業者によると、過去にもこのようなマグロ(コシナガ)は来遊していたという。